

科目名 (科目番号)	生理機能検査学実習Ⅱ (102193)	教員名	河西 美代子 他	学科等	臨床検査	必修	履修年次	2
				曜日・時限等	時間割表参照	単位数	2	
				オフィスアワー		月12	B211研究室	
授業概要	患者に電極やプローブなどを直接接触して行う生理機能検査に対する実際の検査法について学ぶと同時に、生体に対する安全性の確保、検査技師として患者と向き合った場合の心構えや検査中に生ずる緊急事態へのや対応について検査機器を前にして学ばせる。							
準備学習	毎回の授業の到達目標と学習内容を十分に理解しておくこと							
授業計画	回	授業項目	到達目標・学習内容					
	1	「前期」 循環器系の検査(I)	心電図記録①(電極位置と接着法)、心電図記録②(標準12誘導心電図の記録と負荷心電図記録)について理解させる。					
	2	循環器系の検査(II)	ホルタ心電図(電極接着法と記録法)および心電図波形の計測(PQ・QT間隔、平均電気軸、呼吸性不整脈など)について理解させる。					
	3	循環器系の検査(III)	心音図記録(マイクロホンの接着位置、心音記録など)、頸動脈、光電式容積指先脈波記録(センサーの装着部位と記録)について理解させる。					
	4	循環器系の検査(IV)	各種不整脈のサンプル心電図波形の判読法及び各種虚血性心疾患のサンプル心電図波形の判読法について理解させる。					
	5	神経系の検査(I)	脳波記録①(脳波電極位置と接着法)及び脳波記録②(単極導出と双極導出の記録)について理解させる。					
	6	超音波検査(I)	腹部超音波検査の実施(肝臓・胆嚢・膵臓・脾臓・腎臓の描出)法および、心臓超音波検査の心臓Mモード波形の計測法について理解させる。					
	7	超音波検査(II)	心臓超音波検査のドプラー法による血流計測と心臓超音波検査(長軸・短軸像の描出)法について理解させる。					
	8	「後期」 呼吸器系の検査(I)	呼吸機能検査① 検査の注意点と肺気量ガスの計算方法、呼吸機能検査②及び呼吸機能検査③の%肺活量などの計測法について理解させる。					
	9	呼吸器系の検査(II)	呼吸機能検査③の1秒率などの結果の評価法と血液ガス分析(動脈血酸素飽和度と経皮的血液ガス分圧の測定)について理解させる。					
	10	神経系の検査(II)	脳波検査①(10/20電極配置法による覚醒・開閉眼時の記録)及び脳波検査②(睡眠脳波と過呼吸時・光刺激時の脳波記録)について理解させる。					
	11	神経系の検査(III) 神経系の検査(IV)	正常・異常サンプル脳波波形の判読について理解させる。誘発脳波検査①(聴覚脳幹反応の記録と波形計測)について理解させる。					
	12	神経系の検査(V)	誘発脳波検査②(体性感覚誘発電位の記録と波形計測)について理解させる。平衡機能検査①(電気眼振計の取り扱い方と記録条件)について理解させる。					
	13	神経系の検査(VI) 筋系の検査(I)	平衡機能検査②(電気眼振検査と重心動揺検査記録の実施)について理解させる。誘発筋電図検査(CMAP波形の記録)について理解させる。					
	14	筋系の検査(II)	筋電図検査(表面筋電図の意義と電気刺激装置の取り扱い方)と末梢神経伝導速度検査の実施法について理解させる。					
15	サーモグラム検査 生理機能検査結果の評価	室温サーモグラム検査と冷水負荷による検査法について理解させる。生理機能検査学実習レポート結果の評価法について理解させる。						
成績評価の方法・基準	定期試験(80%)、レポート(20%)により評価する							
教科書	最新 臨床検査学講座 生理機能検査学実習手引書・プリント資料を配布			東條尚子・川良徳弘 編著			医歯薬出版	
参考図書	生理機能検査学実習書			(一社)日本臨床検査学教育協議会			医歯薬出版	
教員からのメッセージ	プリント配布による実習手引書および教科書の当該実習項目について事前に読んでおいてください。実習中でも具体的な要点については板書するので、ノートに書き留めてください。レポートはコメントを付して後日返却します。							